



岡崎市立六ツ美西部小学校 校長通信

校長室の窓から

～校訓 人に優しく 自分に強く～

21号

令和2年12月17

六ツ美西部小学校長
山本 則夫

タブレットの活用が進んでいます

「過去最多の…」毎日ニュースで耳にするコロナウイルス関連のこの言葉にも、だんだん慣れてきてしまいました。今年は、まさにコロナウイルス対応に追われた年でした。発生から1年が経とうとしているにもかかわらず、未だに収束の兆しが見られません。

岡崎市内でも小中学校の児童生徒に感染が確認され、すでに臨時休校となった学校も複数あります。本校からも、いつ子供や職員が感染してもおかしくない状況です。まさに薄氷を踏む思いの教育活動が続いています。

本年度、タブレットが4年生以上に1人1台配付され、授業でも活用が始まっています。今後、1～3年生にも準備される予定です。万一の臨時休校も想定し、タブレットを自宅に一度持ち帰ってインターネット環境の確認を行い、リモート授業や家庭学習のサポートに備えます。(すでに長期入院の児童に対してリモートによる授業も実施しています。)



～人権週間に考える～

コロナの影響で、「思いやり」の大切さが再認識される一方で、心ない言動で傷ついた人もいます。この機会に家族で「思いやり」について話し合ってみてください。

【人権集会での校長の話（一部抜粋）】

日本全国でコロナに感染した小中学生の数→3303人（六西小の全校児童数の4.5倍）

コロナウイルスによって「病気」「不安」「差別」という3つの感染が生まれます。ウイルスをなくすことは難しいですが、この3つの感染が広がるのを防ぐことはできます。これを防ぐのは私たち一人一人の考え方と行動です。

～紙芝居～

やっとコロナが治って学校へ行ったのに、みんなから避けられた子の気持ちを想像してください。やっとコロナが治ったとき、喜んでくれた家族の気持ちを考えてください。



みんなに覚えておいてほしいことを言います。コロナ感染症は誰もがかかる可能性があること。君たちや先生も、その家族や友達も、いつ感染してもおかしくない状況です。

忘れないでください。もしも、コロナに感染した人が身近にいたら…。しっかりお休みをとってお医者さんで治療すれば治ります。元気になって戻ってきたときには温かく笑顔で迎えてください。



六ツ美西部小学校の校訓は「人に優しく自分に強く」です。悲しい思いをしている人を思いやることのできる優しい人になってください。悪口を言ってしまいそうな自分に勝ってください。もし、まわりに友達を傷つけている子がいたら注意できる強い人になってください。